

こうち+クロス

高知赤十字病院
広報誌

ご自由に
お持ち帰りください



特集1:消化器外科のご案内 特集2:ママの休日

高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からぬこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようにお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力ををお願いいたします。

消化器外科のご案内



消化器外科・手術室スタッフ

消化器外科とは？

消化器外科とは消化に関する臓器の疾患を手術により治癒を目指す分野です。消化器とは具体的には、食物が通る食道、胃、十二指腸、小腸、大腸の他に消化吸収に作用する肝臓、胆のう、脾臓を対象としています。消化器ではないですが脾臓の疾患や単径ヘルニア、腹壁ヘルニアも対応しています。一言でいうとお腹の臓器を対象としています。

今年の4月から大阪から赴任してきたばかりですが、新たな環境に早く慣れ一生懸命がんばります。



西内Dr.

当科の特徴

消化器外科学会専門医3名を中心に診療を行っております。対象疾患としては食道がん、胃がん、大腸がん、膵がん、胆管がん、肝がんといった悪性疾患だけでなく胆石症、ヘルニアなどの良性疾患や急性胆囊炎、急性虫垂炎、腹膜炎、腹部外傷などの救急疾患まで多くの消化器疾患の手術を行っております。



消化器外科・内科・放射線科 合同カンファレンス

治療実績(当院ホームページより抜粋)

		2022年度	2023年度	2024年度
大腸がん	ロボット支援	10	8	6
	腹腔鏡	51	63	44
	開腹	15	8	8
胃がん	ロボット支援	7	9	3
	腹腔鏡	0	0	0
	開腹	0	0	0
	ロボット支援	36	40	34
	胃切除	1	0	0
	開腹	0	1	0
胃粘膜下腫瘍(GIST)	ロボット支援	0	0	0
	LECS	5	2	4
	開腹	0	0	0
すい臓がん		9	13	5



取扱疾患と治療法

当科の治療法の特徴として、悪性疾患から良性・救急疾患まで腹腔鏡による手術を広く導入しております。日本内視鏡外科学会が認定する内視鏡外科技術認定医の2名(高知県内取得者17名 内視鏡外科学会HP参照)を中心に手術を行っています。

通常の腹腔鏡手術に加えて2018年から胃がんや大腸がんに対してロボット支援下腹腔鏡手術も導入しており、今では当科で手術を行う胃がんの100%がロボット支援下腹腔鏡手術、大腸がんの場合は通常の腹腔鏡下手術が主でしたが、スタッフの異動により今年度(2025年度)からはロボット支援下腹腔鏡手術が積極的に行なわれています。通常の腹腔鏡手術に比べてロボット支援下で行う場合は、手振れ防止機能と3D構築された鮮明な画像によって、より緻密で繊細な手術ができるようになっています。機能温存や合併症の軽減に役立てています。体への負担を少なくしながら過不足のない手術を行っており、リハビリテーション科、栄養課と連携し術後早期の退院を目指しています。

また鼠径、大腿、閉鎖孔ヘルニアや腹壁瘢痕ヘルニアに対する腹腔鏡下手術、良性疾患に対する臍部の一つの傷から手術を行う単孔式手術や細径鉗子によって手術を行うNeedle scopic surgeryを開始し、2025年現在安定した安全な手術が行えています。



ダヴィンチ本体



2018年5月から安全なロボット手術の普及に尽力し、350例超を経験させていただきました。2025年8月から術者3人体制で胃がん、大腸がんにロボット手術で対応しております。



腹腔鏡手術の様子



若手医師に指導する岡本Dr.



一般の皆さん、開業医の皆さん

お腹の具合が悪い場合は、まずはお近くの開業医で診察を受けてください。大半が内科的治療で対応できると思いますが、外科的治療が必要と判断された場合は、安心して当科に紹介をしてもらってください。お腹のことならなんでも対応可能です。ベストな治療(手術)をご提供します。



ホームページはこちらから

～ママの休日～

高知赤十字病院 産後ケアのご案内



当院では、病院で妊娠期から分娩期、産褥期と継続的な関わりができ、地域との連携が図りやすいという利点を活かし、令和6年5月より産後ケア事業を始めました。



ご希望により、アロマ芳香浴、乳房マッサージや身体をほぐすストレッチなども利用できます。

産後のママたち、このようなお悩みはありませんか？



プランの種類

 通所型 利用時間：月・火・木・金 10時～16時 昼食・おやつ付き	 宿泊型 利用時間：月曜のみ 10時～翌10時まで 3食おやつ付き	 赤ちゃん用品の手ぶらプランもあります
--	---	------------------------

当院での産後ケアのスケジュール例(宿泊型の場合)

10:00	病棟到着、オリエンテーション、利用内容・希望確認
10:30	赤ちゃんの体重測定、沐浴、授乳
	沐浴はスタッフでの実施をご希望の場合、お母さんにはお部屋でお休みいただきます。
12:30	昼食
13:30	授乳相談 乳房ケア
15:00	おやつ
18:00	夕食
	夜間は授乳のサポートやゆっくりお休みいただけるように赤ちゃんを適宜お預かりします。
翌朝 8:00	朝食
10:00	産後ケア終了



助産師がゆっくり話を聞きながら授乳のアドバイス、乳房ケアを行います。



休息をご希望の方は授乳方針を確認の上、病棟で赤ちゃんをお預かりしています。

実際に当院で産後ケアを利用されたママの声

- 助産師さんに話すと安心するし、気分転換になった
- 久しぶりに一人の時間を過ごすことが出来ました
- 初めての育児で不安があるなか、自信を持つことが出来ました
- あっぱれいの出やミルクの量で迷っていたので相談出来て良かった



産後ケアはお住まいの市町村の産後ケア事業部に申請すると補助がでます。

<当院の産後ケアについて>

当院では電話で事前予約を行っており、その際にご希望プラン・内容をお伺いしています。詳細は当院ホームページをご覧ください。

ご利用希望日の2日前までに当院5階西病棟までご連絡ください。

電話対応時間帯：平日8:30～17:00 電話番号：088-822-1201

ホームページは
こちらから



ママの幸せがみんなの幸せ 一人で抱え込まなくて大丈夫
いつでもみなさんをお待ちしています。



検診マンモグラフィ撮影認定診療 放射線技師とは



検診マンモグラフィ撮影
認定診療放射線技師
堀野 美沙希



同じく認定技師の高野さんです

マンモグラフィは乳房専用のX線撮影のことと、乳がんの早期発見に有効とされる検査です。

マンモグラフィの専門的な知識と撮影技

術を習得していることを認める資格に、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師というものがあります。日本乳がん検診精度管理中央機構が主催・共催する講習会を受講し、試験(筆記・読影)に合格すればこの認定を受けることができます。これにより質の高い画像を提供することが可能となり、乳がん検診の精度を向上させることができます。また取得後も資格更新制度があり、5年ごとに講習会および試験を受けなければなりません。

当院に在籍している女性技師は全員この認定を取得しています。

マンモグラフィは乳房を引き出し、専用装置で挟んで撮影を行うため痛みを感じやすく、他にも羞恥心や緊張、不安など様々な感情を抱えながら受ける方が多い検査です。さらに、乳房の形や大きさといった個人差を考慮した撮影が必要となってきます。認定技師が検査を担当することで、適切なポジショニングと乳房圧迫により痛みや不快感を最低限に抑えつつ、診断に必要な一定の精度を保った画像を正確に撮影することができます。

また、マンモグラフィはリラックスして受けさせていただくことが重要で、受診者側は痛みの軽減、技師側はポジショニングがしやすくなるといった利点が双方にあります。中には女性技師が検査担当と分かっただけで一気に緊張がほぐれ、その後の検査がスムーズに終わったという例もあります。同じ女性だからこそその強みとこの資格を活かし、より安心してマンモグラフィを受けていただけると思います。

乳がんは早期発見・早期治療により予後は良好とされ、そのためにもマンモグラフィによる乳がん検診は必要不可欠です。今後もマンモグラフィを通じて皆様の健康をサポートできるよう、撮影技術の維持向上に努めていきたいと思います。



朝のミーティングの様子



第34回糖尿病重症化予防(フットケア)研修に ファシリテーターで参加して

糖尿病看護認定看護師 濱田 一豊

2008年に糖尿病合併症管理料が診療報酬として認められるようになって以来、糖尿病重症化予防(フットケア)研修としてフットケアを実施できる看護師育成のための研修会も34回目となり、今回初めて高知県で開催しました。

6月8日はWEB研修、6月14、15日は集合研修で、場所は当院(高知赤十字病院)で行いました。高知県の糖尿病看護認定看護師5名、徳島県の糖尿病看護認定看護師2名がファシリテーターとして参加しました。来年度開催予定である愛媛県の糖尿病看護認定看護師2名も、見学参加していただきました。

受講要件は、糖尿病足病変の看護経験5年以上従事し、研修修了後その業務に携わる看護師で、施設基準を満たすことがあり、ベテラン看護師が多く、高知県だけでなく、中四国、遠くは九州からも参加者がいました。病棟、外来、透析室勤務と参加者の背景は様々で、キャンセル待ちもあり、ニーズの高さを実感しました。

長時間の研修でしたが、和やかな雰囲気での研修となりました。ファシリテーター、参加者全員で知識・技術だけでなく、日頃のフットケアでの悩みや、楽しみなど喜怒哀楽にあふれたエピソードの共有や、グループワークでの発表、質疑応答と、充実した研修になったと思います。後日のアンケートでも、楽しかった、学びが多かったとの意見が多く嬉しく思いました。

お弁当の時間だけは、「ほっとするひととき」でした(私は、お弁当手配の担当もありました)。四国の糖尿病看護認定看護師9名での弁当タイムは貴重な情報共有の場でもありました。

高知県だけでなく、四国の認定看護師とも顔見知りになり、実際に何度もうち合わせをし、研修を無事終了できたことを振り返り、非常に有意義な時間になったと実感しています。今後も繋がりを大切にして、糖尿病重症化予防のためにチームの一員として尽力していきたいと思います。

症例検討で指導していただいた形成外科柏木先生、いつも糖尿病管理で指導していただいている糖尿病・腎臓内科有井副院長はじめDMワーキングチーム、看護部、6東川田師長はじめ病棟スタッフの皆、医療情報管理課岡村さん、渡辺さんはじめ事務の方々にも協力いただき、無事終えることが出来ました。ありがとうございました。



令和7年度高知県総合防災訓練

令和7年6月1日㈰



耳鼻咽喉科 太原 一彦

大規模訓練ということでかなりの人数が集まって訓練が行われました。トリアージからの各エリアへの患者数も今まで経験した訓練とは桁違いの多さであり、それに伴う弊害も各所で露呈しました。小規模ではわからない①伝達の難しさ(忙しさだけではなく、声が飛び交って聞こえない)、②赤エリアから患者を搬出できずに渋滞する、などは実際に経験しなければわからないことであり、今後も繰り返し訓練することで多くの人に現場の雰囲気、困難さを経験してほしいと思いました。



放射線科 白石 卓也

6/1(日)に令和7年高知県総合防災訓練に救護班として参加してきました。当日は天候もよく少し暑い訓練となりました。訓練では、愛媛県支部救護班、各医療施設のDMATと共に赤エリアでの活動でした。赤エリアの主事活動として、トリアージされてきた傷病者の情報をクロノロによる記録、医療施設への後方搬送の連絡といった活動を行いました。120近い傷病者役が次々に押し寄せてくるというハードな訓練で、バタバタとしてしまい、混乱しながらの訓練でしたが、実災害を想定した訓練ができ有意義な訓練だったと感じました。



ブロック外来 田村 直子

今回私は6/1に行われた高知県総合防災訓練に日赤救護班の一員として参加しました。

例年、日赤救護班、高知DMAT、都市医師会医師2～3名の合計約30～40名で訓練が行われていたそうですが、今年度は、協定締結団体や保健・福祉関係団体の参加、高知県調整本部・支部の設置も盛りこまれ、総勢102名が訓練に参加されました。また高知県内医大生や看護大生、県外大学生が傷病者役として119名参加してくれており大規模な訓練となりました。

私は、赤エリア対応看護師として訓練を行いました。どんどんやってくる傷病者に圧倒されながら、1回目の訓練では傷病者をさばききれず、入り口で立ち往生させてしまうという事態が発生しました。その後2回目の訓練では、ベッド数を増やし1回目に比べ患者さばきはスムーズにできました。しかし搬送させようとした傷病者の名前が違っており、誤搬送されそうになる場面も見られ、災害時にも安全確認や情報の正確性が求められることを痛感しました。また傷病者役の学生より、医療者の声かけが少なかったと指摘があり、傷病者の心に寄り添う声かけが少なかったと反省しました。

最後に、今回の訓練では様々なスタッフと交流ができました。災害時に県民の命を守る役目がある私たちには仲間があり、協力し合って最善をつくすことが重要です。今後も、災害訓練などを通じて関係機関の方々との顔の見える関係を大切にしていきたいと感じました。



臨床工学技術課 明坂 弥香

初めて救護班のメンバーになり、訓練にも初めて参加しました。

何をしたらいいかも分からず戸惑いましたが、支部の方や一緒に参加したメンバーの方々に助けていただき、なんとか無事に終える事ができました。他施設の方との交流もできて、とても勉強になりました。そして、自分の勉強不足を痛感しました。

これからも訓練や研修に積極的に参加し、知識を深めていきたいと思います。

防災season

シーズン

～当院の防災の取り組みや考え方を紹介します～

No.13

アウトレット

臨床工学技術課 鹿取 美由紀、横田 翠

当院は広域的な災害拠点病院に指定されており移転後より施設強化を行い、今後30年以内に起こると言われている南海トラフ地震に向け備えています。今回はその中の災害時用アウトレットについてご紹介します。

皆さん、処置室や病室以外に災害時用アウトレットが設置されているのはご存じですか？

当院では災害時、黄エリアとして使用される2階外来エリアに7カ所と、帰宅困難者待機エリアとして使用される1階インフォメーション横エスカレーターに1カ所の合計8カ所設置されています。全て、酸素と吸引だけの仕様となっています。通常は写真のように鍵で施錠されており使用することができません。災害時など緊急時に施錠を外すことで使用することができます。



黄エリア



帰宅困難者待機エリア

アウトレットの管理は3ヶ月点検・6ヶ月点検・1年点検があり、外観点検・作動点検・流量点検・漏洩点検を臨床工学技士が行っています。

アウトレットは酸素療法・人工呼吸器使用時に限らず、様々な場所で使用されると思います。災害時酸素ボンベだけでなくアウトレットは使用できる場所・数は限られています。そのような環境の中で円滑に使用できるよう、今後も管理を行っていきます。

寄附金でモニタ11台を整備

一般社団法人日本損害保険協会からの寄付金(自動車損害賠償責任保険運用益を原資とした交通災害等救急医療機器整備事業)により、救急外来(ER)初療室、

手術室、アンギオ室にベッドサイドモニタ11台を整備することができました。

これらを活用して交通事故等の救急患者の血圧や呼吸をモニタリングすることにより、迅速な診断・治療を提供していきます。



ベッドサイドモニタ(正面)



ベッドサイドモニタ(裏面)

CAFE CROSS

研修医一年目の紹介

RESIDENT INFORMATION



おか 岡 のりひろ 紀宏 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは?

父が医師をしているため、元々医師に興味はありました。あるとき、小児神経科医をしていた祖父が、テレビでおなじみの「テレビを見るときは部屋を明るくして離れて見てください」というテロップを作ったメンバーの一人だという話を父から聞き、かっこいいなと憧れたのが大きなきっかけです。

これが好き!

とにかくディズニーが好きです。パークや映画や音楽など、ディズニーとつくものは大体好きです。今はディズニーランドに行くために貯金を頑張っています。ディズニー仲間をいつでも探しているので、好きな方がいらっしゃったら話しかけてくださると嬉しいです。



私が、スゴいんです♪

高校から管弦楽部に所属し、コントラバスを演奏していました。今は楽器も弾く場所もないで全然弾けていませんが、機会があればまた演奏したいなと思っています。また、その影響もあって音にこだわるようになり、家に大きなスピーカー(測ったら高さ60cmぐらいありました)があります。

研修への意気込みをひとこと★

まだまだ不慣れなことが多いですが、少しずつでもできることを増やしていきたいと思っています。ご迷惑をおかけすることも多々あるとは思いますが、精一杯頑張りますので、何卒よろしくお願いいたします。

おおかわ もえこ 大川 萌子 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは?

祖母が心臓の病気を患った際、治療の様子を身近に感じたことがきっかけで医師という存在に憧れを抱くようになりました。将来の夢について小学校の担任の先生に話すと、真剣に受け止めて、背中を押してくれたことで漠然とした思いが確かな目標になってきました。

これが好き!

猫が大好きで、実家に帰るとよく一緒に過ごしています。最近は、猫の何気ない仕草や表情を写真に収めるのが楽しみでカメラを持って追いかける日々です。



私が、スゴいんです♪

自分の中でちょっとすごいかもと思っているのが、大学生の時にしまなみ海道を今治から尾道までサイクリングで走り切ったことです。海や橋を眺めながらの道はとても気持ちよかったです。実は結構距離もあって、後半は肉離れ癖のある太ももを押さえながら自転車を漕いでいました。ちなみに帰りは体力を使い果たしたので、フェリーでのんびり帰りました。



研修への意気込みをひとこと★

医療の現場に立たせていただけることに感謝しつつ、日々の学びを大切に過ごしていきたいと思っています。一つひとつの経験に真摯に向かいながら、患者さんや医療スタッフの皆さんとの関わりの中で、人としても医師としても成長していくたらと思っています。未熟な点ばかりですが、信頼される医師を目指して努力していきます。

新EMIS研修を受講しました

医療事業・広報課 笹岡 由美

オーテピアで開催された「令和7年度新EMIS（広域災害救急医療情報システム）研修会」に、当院から2名のスタッフが参加しました。

EMISの大きく変わった点は

- 入り口が2つG-MISとEMISに
- 旧EMISで使われていた「訓練モード」→「研修・訓練、個人練習用ログイン」に
- Google AuthenticatorやJoinを導入

この3点です。

EMISは、阪神淡路大震災時の情報錯綜の教訓から、「適切な情報を迅速に広く共有することで、適切な人、資機材の調整を可能にする」ことを目的に構築されたシステムです。その目的を遂行できるよう、院内でも研修を繰り返し行なっていきたいと考えています。



健康へ投資してみませんか？

～筋肉貯筋編～

リハビリテーション科

皆さんお金は大切ですか？その財産が失わられたらどうしますか？老後2,000万円問題が記憶に新しいと思いますが、そのための貯金は大事ですよね。その貯金を貯筋に置き換えることの重要性、つまり筋肉も大切な財産というお話を。

人は30歳を過ぎると筋肉量は年間1%ずつ低下していきます。そうならないためにはどうしたらいいのか。それは筋トレです。筋トレの効果はたくさんあります。

例えば、、、

死亡率・がん・心臓病
リスクを下げる

基礎代謝が
上がる

血糖値が
改善

骨密度の
増加

体力が
向上

体の
炎症を抑制

など多くの効果があります。

ウォーキングや階段昇降、スクワットなどできることから始めてみてください。

お金という財産が増えるのはいいこと、筋肉も同じで自分の未来の健康寿命を延ばす投資としてはコストパフォーマンスに優れた優良ファンドです。今日からでもLet's Try！

運動例

スクワット



1日10回を
2~3セット

ウォーキング



1週間に
150分

階段昇降



1日
10分

高知新聞企業医療公開講座

高知赤十字病院 医療公開講座

Sakawa SAKURAZA Concert Hall

佐川町立 桜座

〒789-1201 高知県高岡郡佐川町甲346番地1

13:30 ~ 15:00
(開場 13:00)

■お申込み・お問い合わせ

高知市本町三丁目3-39 高知放送南館5階
高知新聞企業 セミナー係

☎ 088-825-4110 (平日 9:30~17:30)

お申込み用QRコード



令和7年

10 / 18
(土)

対象:県民の皆さま

※事前申込み
参加
無料高知家
健康パスポート
ポイント付与対象事業知る
参加する

- 感染防止対策(マスク着用など)にご協力ください
- 駐車場あります

Program I

▶ 13:40~14:10

増えている大腸がん
いろんな治療法があります

第一外科部長 岡本 健



Program II

▶ 14:20~14:50

元気で長生き糖尿病

副院長 有井 薫



+ 高知赤十字病院・高知新聞企業

後援:佐川町

超音波内視鏡講演・訓練(タイ王国より)

タイ王国から講師を招き、2日間にわたって消化器内科医に向けた勉強会を開催しました。

講師はチュラロンコン王記念病院大学長補佐のプラダムチャイ・コンカム先生です。

チュラロンコン王記念病院は、タイ赤十字が運営している病院で、赤十字のつながりを通して貴重な国際交流の機会を得ることができました。

超音波内視鏡についての講演や早期胃癌切除訓練等が行われ、参加者にとって大変充実した勉強会となりました。

これからも、学びの機会を最大限に活かして、より良い医療の提供を目指して参ります。

高知赤十字病院
ホームページ<https://www.kochi-med.jrc.or.jp/>高知赤十字病院
Facebook<https://www.facebook.com/krch.kouhou/>高知赤十字病院
Instagram<https://www.instagram.com/kochinisseki/>Instagram
はじめました

皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。

本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。
(088-822-1201 (代表))